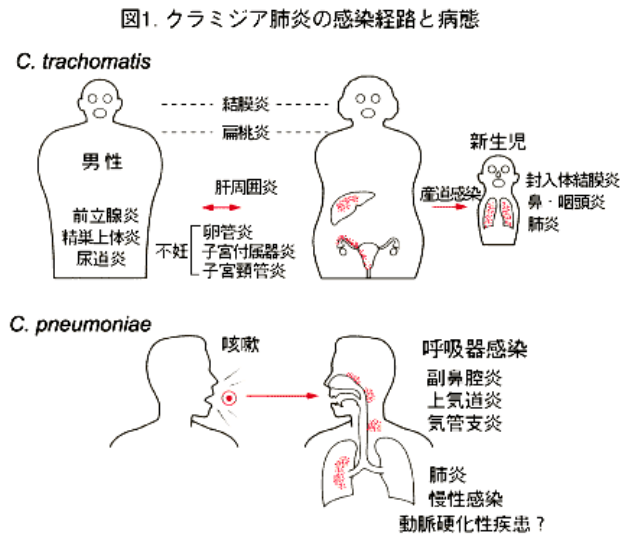
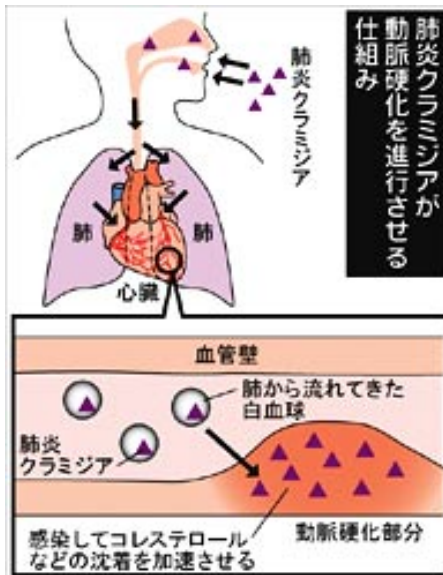


歯ブラシ消毒を励行しましょう！



肺炎クラミジアが動脈硬化の原因になりますが、飛沫感染で伝播して主に急性呼吸器感染症を起こすので、家族間に感染したりします。歯ブラシを紫外線や日光でよく消毒したり、ブラッシングをする前に歯ブラシを熱湯消毒して下さい。歯ブラシに残ったクラミジアにより感染し、薬を飲んでいるにもかかわらず、ぶり返したり、治療効果があがりませんので、気をつけて下さい。

C. pneumoniae 肺炎

C. pneumoniae による疾患としては急性上気道炎、急性副鼻腔炎、急性気管支炎、また慢性閉塞性肺疾患（COPD）を主とする慢性呼吸器疾患の感染増悪、および肺炎である。*C. pneumoniae* は市中肺炎の約1割に関与するが、発症年齢がマイコプラズマ肺炎と異なり、小児のみならず、高齢者にも多い。ヒトを宿主とし、飛沫感染で伝播して主に急性呼吸器感染症を起こす。感染から症状発現までの潜伏期間は3～4週間で、接触が密接な者の中で小規模に緩徐に広がる。肺炎発症の機序としては、上気道に初感染し下降して肺炎に至るものが主とされるが、上気道感染巣から血行性にいたる経路もありうる。本菌による肺炎では非定型肺炎の病態を示し、クラミジアの即時細胞毒性や免疫反応の関与も考えられている。また最近、*C. pneumoniae* は血管などに慢性感染も起こしうることが明らかとなり、動脈硬化性疾患に関わる疑いが指摘されている。また、他の細菌との重複感染も少なくない。家族内感染や集団内流行もしばしば見られ、集団発生は小児のみならず高齢者施設でも報告されている（IASR Vol.22 No.6 p10（144））。感染既往を示す *C. pneumoniae* IgG 抗体保有率は小児期に急増し、成人で5～6割と高い。この抗体には感染防御の機能はなく、抗体保有者も何度でも感染し発症し得る。

肺炎予防対策で、うがいや歯磨きでいつも口の中を清潔にすることがよく言われていますが、歯ブラシも消毒しましょう。